ファイヤープログラム
（キャンプファイヤー・キャンドルファイヤー）

１　意義と役割

・　真っ暗な闇と炎の対照。炎を囲んでの友との語らい、力いっぱい歌い踊る躍動感、そしてしばし沈黙して自己を振り返る。ファイヤープログラムは、感性豊かな子どもたちの心を開き、共に感動を味わう絶好の活動である。

・　屋外で、大きな火を囲んでダイナミックな活動が期待できるキャンプファイヤー。屋内で、静かに心に染み入る幻想的なキャンドルファイヤー。それぞれ一長一短があるため、活動の目的や、活動参加者の実態に応じて組み入れると良い。

２　プログラムの流れ

本来、定型といわれるものはないが、意義をふまえ単なるお祭り騒ぎにならないように以下のような三部構成で行うのが一般的である。

第１部「点火のセレモニー」（厳粛な雰囲気の中で）
第２部「交流のつどい」（歌唱、スタンツ、ダンスなどのレクリエーション）
第３部「消火（分火）のセレモニー」（再び厳粛な雰囲気で）

３　運営のポイント

・　静→動→静という雰囲気のメリハリを意識する。
・　日常生活とは異なる雰囲気を醸し出す。
・　それぞれの団体の性質を考えて独自のプログラムを考える。
（各団体の団体指導者、活動参加者による企画・運営）

４　事前の準備

・　プログラムの検討、役割分担
・　シナリオ作成（歌やスタンツの練習、準備）
・　資材の準備（貸出し）、場所の選定
・　安全確保の確認

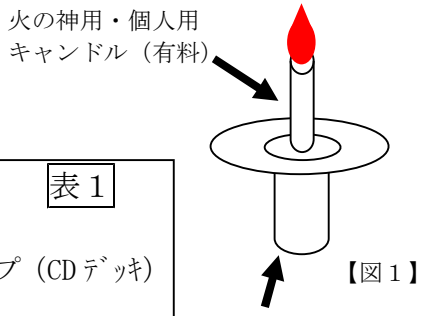
５　活動終了後の流れ

キャンドルファイヤー

【活動可能人数：制限なし】
【活動時間（めやす）：１～２時間】

１　実施時期

通年可能



【図１】

２　準備物

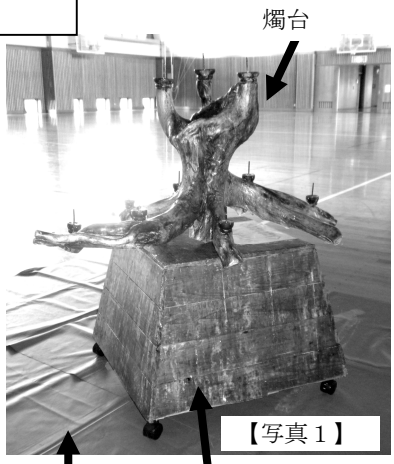
〇本所が用意できる物　　表１

◇無料で貸出し可

①衣装（火の神、火の巫女）　②神の杖　③ライター　④アンプ（CDﾃﾞｯｷ）
⑤メインキャンドル台【写真１】　⑥シート
⑦燭台（大 10 本、小６本）【写真１】
⑧火の神用・個人用キャンドル台【図１】

◇有料で提供できる物

⑨メインキャンドル（有料貸出し）　７０円／本
⑩個人用キャンドル（販売）　１０円／本
※⑨⑩は団体で持参可



３　事前準備

(1) 活動場所

大体育室またはオリエンテーション室で行う。
（活動場所は部屋割で決定する。）

(2) 物品の貸出し

・　事務室で①～④及び⑨⑩を受け取る。
・　大体育室（山側・南側の器具室）にある物品⑤～⑧は団体で準備を行う。

(3) 燭台・メインキャンドル台の設置

ロウが落ちるおそれのある部分（特にメインキャンドル周辺）には必ずシートを敷く。【写真１】

４　後片付けについて

・　使用した物品は、元の場所（事務室または大体育室）に戻す。
・　メインキャンドルは貸出し物品のため、事務室に返却する。
・　個人用キャンドルは、持ち帰る。
・　床に落ちたロウは、大体育室にあるヘラで取り、たらいに捨てる。使用した場所の清掃を必ず行う。

５　翌朝の現場確認について

翌朝にも、必ず現場を確認する。忘れ物、後始末の様子を再度確認する。

６　その他

・　大体育室の照明（水銀灯）は、消灯後の再点灯には 10 分程度の時間を要する。点灯、消灯、再点灯のタイミングには注意が必要である。
・**「来たときよりも美しく」**を合い言葉に、気持ちのよい活動を心がける。